

中学生の頃から、私には将来就きたい職業や目標とする明確なビジョンが無かった。4月、私は二高へ入学した。高校に入ればいろいろな目標も自然と見えてくる、その頃の自分はそういった楽観的で甘い希望を抱いていたのかもしれない。しかし、それは違っていた。目標が定まらず立ち止まっている、現実から目を背け逃げている自分がいた。そんな自分を変えて新たな目標を見つけるために、私は何度か講演を聞きに行ったり、色々悩んだりした。この東京研修も、自分の視野を広げるという目的意識があったため参加を決意した。その2日間の研修の記録を書き記していきたいと思う。

まずは、1日目の午前中のディレクトフォース。私はこの最初のプログラムから世界の広さというものに圧倒させられた。ここでは笹川平和財団の方々からのご講和を通して、自分が今まで知り得なかった世界の一部を垣間見ることができた気がした。中でも、講話をいただいた方々は共通して、自分自身の考えと強い意志を持っていると感じた。最初に講演をいただいた笹川平和財団の理事の田中伸男様からは、国際機関と世界のエネルギー問題に関する内容だった。身近な生活にも影響が懸念されているエネルギー問題であるが、IEAを中心とした国際機関を中心にその情勢が動いていると考えると、やはり世界の広さや、機関の存在の大きさに対する驚きと感心が以前よりも強くなった。また、田中様は日本のエネルギー問題について、東日本と西日本の電気の周波数を統合するということと、原発の再稼働は現時点では必要であるという考えを持っていた。そうすることで、電力の供給の安定化や、経済効果率の確保が可能になるそうだ。しかし、安全面における準備や対策も必要だと述べていた。私が田中様の講演から得た教訓は、自分の考えをしっかり持つということだ。次にグループセッションを行った。このプログラムでは、世界で様々な活動を行っている講師の方々とは対話をした。その方々の中には、フォトグラファーとして日本財団の活動を記録している人や、ハンセン病の人々への支援を行っている人など、多種多様な経験を積み、自身が社会に果たす役割を理解し担っていた。彼らの話からは、人と関わることの大切さや難しさを改めて実感した。そして、それを実現させるためには、幅広い知識と柔軟な対応力が必要になるということも学んだ。そのようなコミュニケーション能力を磨くことは容易ではないと思うが、私も他人との間に壁を作らず、積極的に行動へ移すことを意識したい。

1日目の夜には、二高OB・OGの方々による座談会という形で話を聞くことができた。東大や一橋大の先輩方の話からは、将来したいことの方向性、つまりゴールを決めておくことと、自分に合った勉強方法を見つけることが大切であると学ぶことができた。特に受験勉強に関しては、苦手科目を排除することと、効率重視が重要であると言っていた。私にはまだどれも中途半端なことである。今回の談話を通して、私にとっては文理選択を真剣に考えるきっかけとなった。東大の先輩の方は、東大の学部のシステムである進振りの下調べは大切であると言っていたり、実際に理転したという方もいたりした。一橋大の先

輩は、学部は自分の興味で決めるものだと言っていた。私は、目標とする大学も学部もまだ決まっていない。だから、今回実際に先輩方の話を聞くことができ、とても良い参考になった。今後の自分の学習に生かしていきたい。続いて翌日は、東大のオープンキャンパスへ参加した。私が参加した工学部の講演では、手術支援ロボットのシステムについてのテーマだった。また、工学部は留学生が多いことも特徴で、海外の学生と研究ができるという優れた環境であると感じた。一方で、私が東大に訪れて印象に残ったことは、敷地がとても広いということだ。学内を歩くだけでも結構大変だったことを記憶している。そして、テレビでしか見たことの無かった赤門や並木道、有名な安田講堂や三四郎池も見ることができた。昼食も東大の学生食堂で食事することができ、良い思い出にもなった。日本の学歴トップの大学という点で魅力を感じた大学だったが、しっかり勉強をして考えながら、自分の将来を決定していきたい。

2日目のメインの企業訪問で訪れた外務省。文字通り、日本の外交を行う中枢の機関だ。私は東京で、日本という1つの国を動かす中心となっているところが見たかった。そういった理由で外務省の訪問を選択した。今回対応していただいたのは二高のOGの方だった。官庁の中でも外務省は就職が困難とされているため、本当に二高の先輩方にはすごい方がたくさんいて感激した。国益や国際公益を目的としている外務省は、英語を中心とした語学力が必須で、海外への出張も多いそうだ。その他にも外務省には、「専門官」という、アジアなどの地域の経済や軍事問題に対応する役職もある。日本が世界に対して大きな役割を果たしたり、海外旅行先での安全が確保されていたりと考えると、とても素晴らしい職業なのだと思う。私自身、社会へ貢献できるような職業に就きたいという思いが以前よりも強くなったと思う。

今回の東大見学会、企業大学訪問への参加を通じて、たくさんのことを学ぶことができた。このような機会を用意していただいた、先生方や両親、研修先で出会ったすべての方々に感謝をしたい。今まで見ることのできなかつた世界を、東京で感じることもできた良い経験になったと感じている。これから先、今回の経験を生かして、自分が将来したいことを探していきたい。最後に、いつ何時も感謝の気持ちを忘れず、これからの人生を精一杯歩んでいこうと思う。